



出水麓名物牛車



モンゴルのマナヅル(WWF)



池田断層

山川砂蒸し[砂湯里]の横に広がる、池田湖の爆発で出来た巨大な断層。断崖の上には[たまた箱温泉]がある。



山田昌庵の碑

出水郷 3 代地頭、勤勉尚武・産業振興など善政を敷いた。「出水兵児修養掟」の基を作った。

鹿児島は面白い
鹿児島は楽しい
鹿児島は美味しい
鹿児島は温かい
そして
鹿児島は不思議の国

ひ
つ
と
べ
●

第十三号

ご挨拶

令和七年もあとわずかとなり、一年が過ぎるのを早く感じてしまいます。今年の猛暑で農作物の被害が大きく、私たちの財布を締め付けました。又、クマの出没は地球の異変を予告しているのでしょうか。

今年も「歴史ツアー」「歴史よもやま話」「街歩き」にたくさんの方が参加下さいました。来年も更に楽しいものにしてまいります。

この一年お世話になりました。

皆様よいお年をお迎えください。

NPO 法人かごしま新発見伝塾

理事長 今井 俊子

発行者

NPO 法人

かごしま新発見伝塾

〒890-0023

鹿児島市永吉 3-19-17

ザ・ビューヒルズ 208

Tel 099-800-1521

Mail info@kagoshima-shinhakken.net

<http://www.kagoshima-shinhakken.net>

出水麓武家屋敷にて
出水の由緒ある武家屋敷庭園で
ツアーのお客様一同



出水小学校の校門

出水に赴任する予定で島津義弘が帖佐の屋敷の門を移築させたもの義弘は着任することはありませんでしたが、その後地頭飯屋御門として受け継がれました。



バスツアー紀行文

今井俊子

豊臣秀吉と薩州家、国境を護った出水兵児

行程

中央駅⇨入来⇨薩州家墓地・山田昌巖碑⇨出水麓武家屋敷(伊藤邸・秀吉腰掛石)⇨いわし茶屋(昼食)⇨出水酒造(一五代沈壽官作品展)⇨野間の関⇨境川・境橋⇨特産館いずみ⇨入来⇨中央駅

《薩州家とは》

十一月二十九日八時半、中央駅西口を満席にて出発。この日も快晴。国道3号線から328号線は戦国時代の歴史満載のルートです。



薩州家歴代当主の墓

出水を治めた薩州家は島津八代久豊の二男用久を祖とし、出水・加世田・川辺を領有して、五代実久は姉を島津本家十四代勝久に嫁がせ、実力を蓄えていきました。時は下剋上の時代でした。一方島津分家の伊作家の忠良(日新公)も領地拡大に成功し、頭角を表していた時代に本家は凋落するばかり。勝久は救いを忠良に求め、その子貴久を養子に迎え、清水城に入城させました。貴久十四才の時でした。それに激怒した実久は貴久を城から追

い出し、両者の間に戦いが始まり、実久が加世田別府城にいるところを急襲されて敗れ、出水に戻りました。

天文十四年(1545)貴久は近衛種家卿から衣冠束帯を与えられています。その後薩州家六代義虎は本家の十六代義久の長女於平と再婚し、三人の男子の父親となりました。於平との夫婦仲は大変良かったと推測されます。

《入来院》

戦国島津四兄弟の義久・義弘・歳久の母親は入来院重聡の娘ですが、亡きあとは伊集院の雪窓院に葬られ、雪窓夫人と称されました。

入来の大宮神社は別名「日の丸神社」と呼ばれ、十一月三十一日の深夜に舞われる「君が代」は必見です。

《薩州家の墓に眠る忠辰》

天正十五年(1587)豊臣秀吉が九州平定の為と称して、弟の秀長と共に乗り込んで来ましたが、秀吉は肥後から薩摩に入国し、薩州家の忠辰を迎えました。老練な秀吉は二十一才の忠辰に何を吹き込んだのか。程なく起きた朝鮮の役に出兵しますが、不審な行動で秀吉の怒りをかい改易され、その後朝鮮の加徳島で死を遂げます。忠辰の死の謎は解明されておらず。秀吉・島津本家・忠辰との間には秘密が隠されているように思えます。

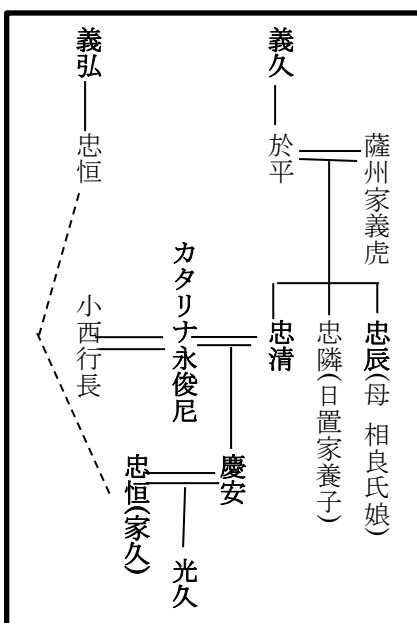


秀吉の腰掛石

《忠辰の異母弟忠清》

忠辰が朝鮮でなくなり薩州家は断絶となりました。そして異母弟たちは宇土城の小西行長に預けられ、成長していきます。行長はキリシタン大名として有名ですが、この弟たちはキリスト教の影響は受けなかったのでしょうか。

慶長五年(1600)関ヶ原の戦いで西軍についた行長は徳川家康に敗れ、敗走の途中捕えられ、京都六条河原で処刑されます。行長の葬儀はキリスト教で行われました。行長の妻は洗礼名カタリナという女性ですが、行長亡きあと成長していた忠辰の弟忠清と結婚するのです。そして二人の間に慶安という女子が誕生しますが、成長すると、島津初代藩主家久(忠恒)は側室とし、二人の間に男子が誕生します。その子は長じて家久の後を継いで第二代藩主光久となります。また忠清は薩州家に嫁いだ島津十六代義久の長女於平が生んだ子供であり、家久は十七代義弘の子供です。光久は義久、義弘の血を受け継いだと同時にクリスチャンの血も受け継いだということです。



カタリナは仏教への帰依を強要されたようですが、信仰心は強く、困り果てた家久はカタリナを種子島に送ってしまいます。カタリナは種子島で生涯を終えますが、お墓には「カタリナ永俊尼」と刻まれており、墓石は山川石で作られています。

《野間の関址》

関ヶ原の戦いの後、薩摩は肥後との国境を厳重に見張る為、関所を設けました。「野間の関」です。

「月一つとせ、肥後の加藤が来るならば、煙硝着に団子会釈。二つとせ、それでもきかずに来るならば、首に刀の引出物」と唄わせ「いつでも来い」という気概を見せました。一方肥後を治める加藤清正は熊本城を築き、石垣は「武者返し」「ねずみ返し」と呼ばれ、ねずみも登れない程と言われます。江戸時代この関所で留められた人は高山彦九郎、坂本竜馬、僧月照などおり、こんな人まで！とびつくりします。



厳さで有名な野間の関



肥薩国境・境川境橋

《境川・境橋》

野間の関址から北へ10分程(5km)行くと境川があります。ここが薩摩と肥後の国境。東西に流れる川はゴロゴロと石が積み重なって、江戸時代を彷彿とさせます。当時は橋はなかったわけですが、明治になって石橋が架けられ、今は自由に通れます。橋のすぐ上を肥薩おれんじ鉄道が通り、古い時代と現代が融合した場所でもあります。



出水兵児修養掟

士八節義を嗜み申すべく候。嗜みと申すものは口に偽りを言はず身に私を構へず、心直にして作法乱れず、礼儀正しくして上に諂うはず下を侮らず人の患難を見捨てず、己が約諾を違えず、甲斐かいしく頼母しく、苟且にも下様の賤しき物語り悪口など話の端にも出さず、譬恥を知りて首刎ねらるゝとも、己が為すまじき事をせず、死すべき場を一足も引かず、其心鐵石の如く、又温和慈愛にして、物の哀れを知り人に情あるを以て節義の嗜みと申すもの也。

戦国時代を生きた宰相夫人(実窓夫人)

戦国武将の島津義弘は三回結婚しています。

最初の妻は永禄三年(1560)臼州飢肥の伊東氏と対峙していた時、北郷忠孝の娘と結婚し、長女御屋地を儲けています。二番目の妻は肥後人吉の相良氏の娘といわれます。どちらとも双方のお家の事情で結婚したと思われる。この妻はじきに帰されています。

そして三番目の妻が宰相夫人といわれ、今の鹿児島市小野町の園田清左衛門の娘です。小さな川で大根を洗っている女の子に「うんまかそんな大根じゃ」と声をかけたのがきっかけなのだから。

義弘は永禄七年(1564)臼州真幸院(えびの)に移り、二十六年間住み、宰相夫人との間に五男一女をもつています。戦国時代は戦いに明け暮れ、女性には子供を産んでも明日の命の保障もないまま不安な日々を送っていたのではないのでしょうか。宰相夫人は長男、二男、四男、五男を亡くし、男子で只一人残ったのが三男忠恒(家久)だけでした。そして「お下」という女子も伊集院忠真に嫁ぎますが、忠真は乱を起し家久に殺され、その一族も皆殺しにされるといふ悲惨な運命をたどります。

戦国時代とはいえ宰相夫人の心は深く傷つき、計り知れない闇の中に沈んでいたに違いありません。そんな妻に義弘はせつせと手紙を出し続けるのでした。

歴史よもやま話 本年8月以降

R7/08/28	92回黒豚の歴史	講師 今井俊子
09/25	93回からいもは世界」を救う	講師 今井俊子
10/23	94回肥薩国境を越えて	講師 今井俊子
11/27	95回大河ドラマ豊臣兄弟の前に	講師 今井俊子

街歩き 本年8月以降

R7/09/18	90回西郷さんをしのんで	今井俊子
10/09	91回旧鹿児島県刑務所から小松別邸	今井俊子
11/06	92回水上坂から西郷家墓地	今井俊子
12/02	93回桐野利秋と南洲墓地	今井俊子

知るを楽しむバスツアー 本年8月以降

R7/10/04	阿多カルデラとジオでわかる指宿の歴史
11/29	豊臣秀吉と薩州家そして国境を護った出水兵児



郡山ふるさとを学ぶ会
日新柱(伊作小保存)

大隅国府跡
国分祓戸神社前に下記の碑
713 年大隅国が建国され、
国府が置られました。
来年3月ツアーで探検しま



編集後記

本性でしょうか、毎度付焼き刃で変わり映えしません。早くから準備しないとイケません。時間はたっぷりあるのでから。

編集責任者 今井征男

2026 年度の事業カレンダー

12/20(土)現在の予定表です。変更になる場合があります

	回	月	日	曜	カテゴリー	テーマ
歴史よもやま話 10:00～11:40 会場 市福祉プラザ 4F 小会議室 資料代 200 円 要予約 27 名限定						
	前年度	1	22	木	96 回歴史よもやま話	島津登志子氏講座～島津忠義邸へ行幸啓の一考察
	前年度	2	26	木	97 回歴史よもやま話	日新公・貴久公と四兄弟
	前年度	3	26	木	98 回歴史よもやま話	四兄弟と三州統一
	1	4	23	木	99 回歴史よもやま話	家久上京と信長・光秀、石見銀山
	2	5	28	木	100 回歴史よもやま話	九州制覇に挑む四兄弟
	3	6	25	木	101 回歴史よもやま話	豊臣兄弟と島津四兄弟
	4	7	23	木	102 回歴史よもやま話	朝鮮の役と薩摩の若者たち、そして伊集院忠棟
	5	8	27	木	103 回歴史よもやま話	関ヶ原の戦い
	6	9	17	木	104 回歴史よもやま話	島津家の家督争い
	7	10	22	木	105 回歴史よもやま話	義弘の晩年と関ヶ原後日談、妙円寺参りの歌
	8	11	26	木	106 回歴史よもやま話	来年は西郷生誕200年・没後150年
街歩き 10:00～12:30 会費 1,000 円(資料代、保険代含む) 2 日前までに要予約 15 名限定						
	前年度	3	19	木	第 94 回街歩き	加治屋町から高麗橋・武之橋巡り
	1	4	23	木	第 95 回街歩き	山川石のお墓・島津本家菩提寺福昌寺跡巡り
	2	5	14	木	第 96 回街歩き	三方限(上之園・高麗・荒田)と松方正義巡り
	3	9	17	木	第 97 回街歩き	西南戦争と西郷＝城山・終焉の地・私学校跡・銅像
	4	10	22	木	第 98 回街歩き	島津重豪が造った天文館・金生町
	5	12	2	火	第 99 回街歩き	桐野利秋と南洲墓地の若者たち
バスツアー						
	前年度	1	17	土	原口泉教授の野外歴史教室	志布志の繁栄の謎解き歴史と港湾コンビナート
	前年度	3	21	土	国分・古代	古事記・日本書紀から国分の古～い神社と……
	1	4	25	土	戦国島津氏・えびの	義弘と愛妻とのえびのの26年間、満開のキリシマツツジ